

## ICメルマガ（国際委員会メールマガジン）

### 第3回 スマートツーリズム国際会議（マカオ）の参加報告

國學院大學 観光まちづくり学部

小林 裕和

今年で3回目を迎えるWorld Conference on Smart Tourism (WCST) が、2025年12月17日～20日に中国マカオ特別行政区にあるマカオ科技大学にて開催されました。WCSTは、学術誌『Journal of Smart Tourism』を発行するスマートツーリズム学会（本部：韓国）が主催する学術会議で、今回初めて韓国以外で開催されました。観光分野における情報技術に関する研究はすでに30年以上の歴史を持ちますが、スマートツーリズムは、その分野を発展させる形で約10年前からその概念が提唱され、研究が蓄積されてきた分野です。

初日は大学院生・若手研究者向けの研究デザインについてのワークショップが開催され、2日目からは、研究発表と基調講演、パネルディスカッションが行われました。また今回の学会の特徴は、言語ごとの特別セッションの一つとして「ジャパン・トラック」と、学術だけでなく実務家からの発表カテゴリーが設けられ、多様な研究発表の機会を促したことです。国際学会における日本語での発表や、箱根DMOなど観光業界からの実践事例の発表は、参加者の関心をひきつけ活発な議論が交わされ、参加者からも非常に有意義であったとの感想を聞きました。3日目も研究発表やパネルディスカッションが行われました。またポスターセッションでは、日本からの参加も含め若手研究者の発表を中心に熱心な意見交換がされていました。

今回の参加者は24カ国から277名、94件の発表がありました。また、大会プログラムは研究発表だけでなく、スマートツーリズムの最新の研究動向や、観光学術ジャーナル編集者による観光研究の傾向などに関する講演、若手研究者向けのキャリア指南のパネルディスカッションなど、大会全体を通じて、研究者向けに参加の価値を感じられるようさまざまな企画が工夫されよくデザインされているとの印象を受けました。

次回大会は2026年12月17日～20日、ベトナム・ダナンのドゥイタン大学にて開催される予定です。

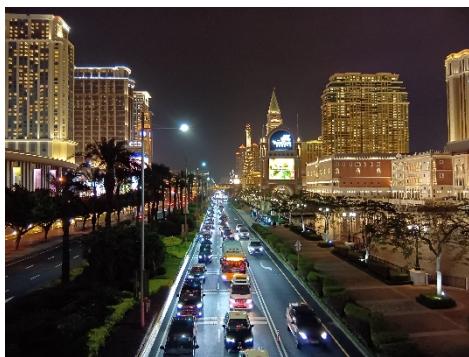
発表は4つの会場（教室）で行われた



会場となったマカオ科技大学



夜も眠らないマカオの街なみ



12/19 ガラディナーの様子 表彰式など

